

スペシャリストの素顔

医療現場ではさまざまな職種の職員が働いており、リハビリテーションでは理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が働いています。その中から、スペシャリストとして言語聴覚士をご紹介します。

■言語聴覚士 (ST)

鹿児島医療センター
田場 要 さん
言語聴覚士



言語や聴覚、摂食・嚥下に関わる訓練や指導、支援を行う国家資格。リハビリテーションに関わる3職種のひとつで、障がい発現のメカニズムを明らかにし、検査・評価を実施して、障がい回復のための訓練や助言、指導などの援助を行う。

言語聴覚士 (ST) の役割とは？

言語聴覚士 (ST) は名前のとおり、話したり、聞いたりするための機能の検査やその回復を担う専門職で、小児における言語・聴覚の発達の遅れ、脳卒中やがんなどで生じる失語症や、発音・発声、コミュニケーションに関する障がいなどに対応します。一方で、摂食・嚥下（えんげ）機能、つまり食べ物を噛んで飲み込むといった機能回復を主に担っているのも言語聴覚士です。必要であれば、舌が上手く使えない時にはガーゼで舌を挟んで舌のストレッチをすることもあります。



チームでの役割分担と ST の立場は？

他のリハビリスタッフ（作業療法士や理学療法士）と同様に、ここまでが担当とはつきり線引きできるものではありません。

例えば、脳卒中の患者さんでは体の片側に麻痺が出てしまうことも多く、食べることに支障がある場合であれば、理学療法士は食べるための姿勢を保てるよう体幹機能の回復を、作業療法士は食べる際の環境の調整（食べやすい食品や食器など）や手先の訓練を、そして言語聴覚士は食べるための口や喉の機能回復を担うのです。

その際、言語聴覚士は話すことや聞くこと、そして食べることに障がいが生じてしまったメカニズムを解き明かし、その原因に即した対応を他のスタッフと調整したり、指示する役割も担っています。他の2職のリハビリスタッフはもちろん、実際に食事の介助をしてくれる看護師、食品そのものに工夫をしてくれる管理栄養士なども含め、それぞれの専門力と強みを生かしながら、患者さんをチームで支援しているのです。

機能回復とともに大切なことは？

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3職種に共通することですが、その役割は単に身体的な機能の回復だけではありません。その人を取り巻く環境や背景、その人の生き方といったことの把握にも努め、退院後もその人らしい人生が続くように、総合的に支援することが言語聴覚士の最大の存在意義なのです。作業療法士が心理的な支援も担うように、言語聴覚士も患者さんに寄り添い、話すこと、聞くこと、そして食べることで、いかにその人の人生に大きな影響を及ぼすのかということに肝に銘じて職務に励んでいます。



鹿児島医療センターでは特に脳・循環器・がんをテーマに、リハビリの3職種がチームを組んで取り組んでいます。鹿児島県内では頭頸部が

ん（口の中や喉などにできるがん）にも対応できる病院は限られており、全国のNHOの病院の中でも言語聴覚士が担う役割は大きいのです。